

## 迷惑メール対策ハンドブック2018に向けてのアンケート集計まとめ

	設問	まとめ
1. 読者層	<p>従来は、迷惑メール対策について一定レベルの知識を有する方々を対象としていましたが、これから迷惑メール対策に取り組む企業等のシステムマネジメント担当者や消費生活相談センターの相談員など専門知識のない方々にも役立つ内容にしてはどうかと考えていますが、この点についてのお考えがありましたら、ご記入をお願いします。</p>	<p>○ご賛同のご意見が多数あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身でサーバ構築したとしても、定期的に技術理解を行い更新していくのは非常にコストがかかるので、「こういった視点で事業者を選べば迷惑メール対策がなされたメール運用ができる」といった内容が欲しい</li> <li>・消費生活相談員向けのわかりやすい冊子を作る必要がある</li> <li>・被害が増えている消費者向けのものも重要</li> <li>・消費生活相談員と連携は重要</li> <li>・迷惑メールが各種のトラブルや犯罪の起点となることを知っていただく必要がある</li> </ul> <p>○反対意見は次の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門知識の無い方だけを対象にしてしまうと、逆に技術的標準の世界的な流れなど、必要情報を届けるものが無くなってしまふのが心配。ターゲットを相談センターなどの一般の利用者に接点のある方にしたいならば、具体的な対処方法、通報など、必要な情報を別添とすれば良い</li> </ul>
2. 拡充の方向性	<p>迷惑メールの最新の状況、メールを悪用した犯罪（フィッシングや架空請求による詐欺など）の手口とその被害の状況など、直近1年間の最新動向を中心として構成し、迷惑メール及びその対策などに関するデータについても充実させて白書的な文書として作成することとし、名称も「迷惑メール対策ハンドブック」から「迷惑メール対策白書」と改めてはどうかと考えていますが（次年度は「迷惑メール対策白書2018」として作成）、この点についてのお考えがありましたら、ご記入をお願いします。</p>	<p>○「白書」とする事についての反対意見は無し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィッシング対策等</li> <li>・白書は実態報告、ハンドブックは実務書と、内容の意味合いが違ふと感じます</li> <li>・データがあると啓発活動に有用</li> <li>・最新トレンドはハンドブックよりHPへの掲載がより良い</li> </ul>
3. 構成について	<p>1・2の方向で内容を見直し、白書的な文書とする場合に、従来の構成に関して改善をした方が良いと思われる点や追加・削減した方が良くと思われる内容について、ご意見やご提案がありましたら、ご記入をお願いします。</p>	<p>○種々のご意見あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSのメッセージは「迷惑メール」に該当しないため、見直しをすることが望ましい。通信である電子メールとWebサービスであるSNSのメッセージとは、送信される仕組みが異なり、制度や対策、取り組みも異なる。</li> <li>・実態報告から見た実務ハンドブックであれば、多くの人に役立つ</li> <li>・DMARCについても追記して欲しい</li> <li>・フィッシング詐欺、ウイルス添付メール、架空請求詐欺など、時期的に注意すべきトピックを取り上げて下さい</li> <li>・現在の（参考1：利用者が注意すべきこと）（参考2：メール送信側が注意すべきこと）は章立てして、利用者が積極的に対策が取れることを周知してほしい</li> <li>・専門的なデータや技術的な説明については、末尾にまとめて参照させるようにし、本論部分は、基本的な説明にとどめるようにしてはどうか</li> <li>・迷惑SMSに関する説明を記載してはいかがでしょうか</li> <li>・相談員の方々などが技術的部分を読み飛ばし、必要な章を加えれば良い</li> </ul>
4. 執筆のご協力	<p>「迷惑メール対策白書」を作成する際には、従来と同様に構成員の皆様にご協力をいただきたく考えているところ、内容の見直しに応じて、従来以上に、情報の提供や文章の執筆にご協力をいただけないかと考えておりますが、具体的にどのような項目・内容であれば、ご協力いただけるのか、現時点で想定できることがありましたら、ご記入をお願いします。</p>	<p>○多くの構成員から執筆協力可能とのご回答をいただきました</p>
5. 利活用について	<p>「迷惑メール対策白書」が完成した場合に、貴組織での利活用や、関係するその他の組織・団体での利活用について、どのような形が可能なのか、お考えがありましたら、ご記入をお願いいたします。</p>	<p>○多くのご提案をいただきました</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（自協会の）会員に対して白書発行（ダウンロード）を周知したい</li> <li>・迷惑メールに関する各種イベント・カンファレンス等の場にて参加者に配布してはどうか</li> <li>・作成する目的を、協議会メンバー間で改めて共有してはどうか</li> <li>・企業や大学におけるネット教育はもちろん、小中高の教育現場でも、ハンドブックの記述を使用して頂けるように、教育委員会に打診するなどの方法がある</li> </ul>
6. その他	<p>その他、「迷惑メール対策白書」の作成以外の協議会の活動について、改善に向けたご意見がありましたら、ご記入をお願いいたします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・零細事業者や非営利組織のためのわかりやすいガイドが（ハンドブックとは別に）必要</li> <li>・脆弱性対策・サーバ証明書などセキュリティ対策全般について、発信側として最低限知っておくべきことに加え、「対策を採るには誰に相談するのが良いか」が書かれていれば十分</li> <li>・「迷惑メール」の範囲を、仕組みの異なるSNSなどWebサービスでの迷惑行為にまで広げることには不賛成</li> <li>・企業や組織のセキュリティがますます強化されようとしています。その中で、メールを介したものも多く見られ、セキュリティ部門との連携した活動もいいかもしいない</li> <li>・フィッシング詐欺、ウイルス添付メール、架空請求詐欺など、時代の移行に伴うものへの移行をご検討願う</li> <li>・迷惑メール対策白書の作成とともに、企業の担当者や消費生活相談員に対する啓発講座を行ってはどうか</li> <li>・警察や、総務省の業務停止命令などの基準を厳しくしないと、今の犯罪的な迷惑メールは止まらないと思う。今や、迷惑メールは犯罪加担ツールとなっている。</li> </ul>